

川崎町地域公共交通計画（素案）に対するパブリックコメント実施結果について

意見募集期間 : 令和6年2月1日(木)～2月21日(水)

対象者 : 町内に居住、通勤、通学している方
 : 町内に事務所、事業所を有する方
 : その他本計画の利害関係者など

意見提出方法 : 電子メール、郵送、FAX、インターネット回答(logoform)

提出意見数 : 4件（インターネット回答3件[No.1～3]、窓口受付1件[No.4]）

提出意見の内容と提出された意見に対する回答

属性	提出された意見	回答
① 50代 女性	<p>これからの川崎町での生活には公共交通機関は必須です。特に高齢者が増加することは勿論、未来を担う子供たちの為にも、便利な町になることは大切だと思います。</p> <p>北九州や福岡市等、人口増加で交通インフラは便利になっていますが筑豊地域は不便さが際立っていると感じます。私は車を所持していないのでとても不便な生活をしています。</p> <p>色々な町民の意見を聴いて検討して頂きたいと思います。</p>	<p>貴重なご意見ありがとうございます。</p> <p>ご意見の通り、公共交通機関が便利な町になることは非常に大切なことです。</p> <p>川崎町では、基本目標①に示している「使いやすく、使い続けられる公共交通」の達成に向け、各事業に取り組んでまいります。</p>
② 40代 女性	<p>子供が近畿大附属高校に通っています。</p> <p>川崎から西鉄バスに乗り後藤寺バスセンターで天神行きに乗り換えて学校まで通っていたのですが今年の8月に西鉄のダイヤ改正があり、朝課外のある日は天神行きのバスに間に合わなくなりました。</p> <p>帰りも後藤寺バスセンターから添田行きは最終が18時30分なので間に合わず、結局朝も夜も後藤寺まで送迎しています。</p> <p>せっかく定期券も買ってるのにとても不便です。</p> <p>今回の計画には関係ないかもしれませんが意見を言わせていただきました。</p>	<p>貴重なご意見ありがとうございます。</p> <p>町外移動について、まずは町内の駅やバス停へのダイヤ接続等の利便性向上に取り組んでまいります。</p> <p>また、町外移動についても情報周知により移動方法のご提示を検討しております。</p> <p>実際に川崎町の公共交通再編等を行っていく中で、今後の方向性の参考にさせていただきます。</p>
③ 60代	<p>買い物、通院など町内移動に加えて、博多小倉に行きやすいJR 接続の工夫をお願いします</p>	<p>貴重なご意見ありがとうございます。</p> <p>まずは町内の駅への接続利便性の向上に取り組んでまいります。</p> <p>合わせて、JR 九州や西鉄バスの利用促進の一環として広域移動、博多や小倉といった主要都市への JR 乗り換え案内等の情報周知に努めてまいります。</p>

No.	提出された意見	回答
④ 男性	<p>1、ふれあいバスについて</p> <p>(1) 川崎町場前より西鉄バス 後藤寺方面への接続をよくすること。</p> <p>三井・大峰線の場合、朝 7 時台のバスも 9 時台のバスも、西鉄バス後藤寺行きへのほとんど同時刻に近く、事実上、乗り換えができなくて、田川病院沿線の病院、スーパーなどを通院に利用できない。JR では田川病院には不便で、他の病院、スーパーも利用できない。</p> <p>(2) 逆行便数が少なすぎて、例えば田川病院方向から川崎役場通りで西鉄バスで帰って来ても、その後の接続が悪くて。(特に午後ほとんど使わない)</p> <p>私の場合、三井栄町団地に住んでいて、歩くと、坂道ばかりで、とても苦痛であり、下肢関等への負担が大きい。(雨天、暑いときなどは、特にきつい)</p> <p>3)各路線が川崎町役場で途切れていて、川崎町立病院、De 愛などへ行くのに不便である。(もともと、町立病院 De 愛方面は西鉄バス安宅線が廃止になる前には後藤寺、三ヶ瀬、田原方面に直結していた。)</p> <p>(4) 高齢になって下肢の関節を傷めたり、障害があったりすると、高い床のバスには乗りにくい。新規導入時には低床のものを期待する</p> <p>(5) ナフコ川崎店への運行を考えてほしい。</p> <p>2、公共交通一般について</p> <p>(1)公共交通(JR、西鉄バスを含む)は通勤、通学、買い物、通院、年金おろし(郵便局、銀行等)、各種支払い、役場への諸手続きなど、生活に欠かせないものである。</p> <p>それとともに自己実現(趣味、旅行、人との付き合い)などに欠かせないものである。</p> <p>それを鑑み、平日の運行便数を増やすだけでなく、土日祝日の運行も平日並みに確保していただきたい。</p> <p>(2)高齢者、障がいのある人、運転免許証を持たない人、車を持たない人にとっては自立の手段である。特に障がいのある人たちにとっては自立、自己実現に欠かせない手段である。公共交通が不便なことによって、障がいのない人と同等の社会生活が送れない要因になっている。これは国連障害者権利条約</p>	<p>貴重なご意見ありがとうございます。</p> <p>1. ふれあいバスへのご意見について</p> <p>ふれあいバスは施策①-1 である川崎町公共交通網の最適化より、田川病院への接続及び町内の幹線道路沿いの商業施設等への接続を検討しています。</p> <p>また、田川病院で田川市コミュニティバスとの接続も検討しています。</p> <p>ふれあいバスとして限られた中での再編となりますが、運行経路の見直し、運行本数の見直しにも取り組んでまいります。</p> <p>車両整備につきましては、施策②-1 に示している通り、可能な範囲で高齢者にとっても利用しやすい車両の整備に努めます。</p> <p>2. 公共交通一般へのご意見について</p> <p>JR 九州や西鉄バス、タクシー等の町内に係る公共交通と連携して持続可能な公共交通網を目指してまいります。</p> <p>町内移動を担うふれあいバスも持続可能な運行を念頭に利用者にとってより使いやすいサービスの提供に努めます。</p>

に規定された合理的配慮の義務違反である。

(3)高齢者の買い物には訪問介護、川崎町社会福祉協議会の地域いきいきふれあいサロン、一部デイサービス等が実施している買い物支援と重複して、ふれあいバスと競合する面があると思うが、それぞれがそれぞれの役割を果たしており、調整しつつふれあいバスを維持してほしい。

※その他社会的活動(行事、集会、会議等への参加)

私個人は3年前及び昨年秋、上下肢関節を痛めて運転免許証を返上しなければならないとも考えたが、買い物だけは支援を受けられても、その他用事では代替えするものがないので、実質社会生活を維持できなくなるので、免許の更新をした。今の公共交通の状態では免許はいつまでも返上できない。安心して返上できる環境を整えていただきたい。

追記

1、JR 日田彦山線(田川後藤寺～添田)及び西鉄添田線の維持、及び、それらとの連携を強め、地域住民、交通弱者の「移動の自由」の保持のために全力を尽くしていただきたい。

2、他市町村のコミュニティバスとの連携を図って、より田川地域内の移動を便利にしていきたい。